

第9期所沢市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 進捗評価表 （計画期間：令和6年度から令和8年度）

1 計画の評価方法

市では、本計画に基づく各種の施策やその効果について、本計画に沿って十分に達成されているかどうか、別紙「進捗評価表」により、年に2回（上半期終了後と年度終了後）評価を行っています。

具体的には、主な施策について指標及びそれに対する目標値を設定し、第一に、この指標における目標値を達成しているかどうかを確認します。

しかし、各施策においては、指標以外の事柄も重要であることに加え、設定した指標のみで評価することになると、指標以外の取組が十分に鑑みられない可能性もあることから、指標以外にも考慮すべき取組などがある場合は、設定した指標の達成度合いを踏まえつつ、それら指標以外の取組も適宜勘案して評価を行います。

また、年度終了後の評価においては、各施策について、達成（○）、一部未達成（△）、未達成（×）の3段階で評価します。評価内容については、所沢市高齢者福祉計画推進会議において報告し、委員の御意見等を踏まえ、改善につなげていくものです。なお、指標の設定に当たっては、施策の指標を数値で確認でき、その達成度合いを明確に測ることができるものを用いています。

2 計画書における各種施策と評価指標

計画書における各種施策		計画書該当頁	指標有無	指標設定数
基本目標 1	自立した生活を継続するための取組の推進	43-68	○	10
	介護予防・健康づくりの取組	47-61	○	9
	いきがいつくり・社会参加の促進	62-68	○	1
基本目標 2	住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるための取組の推進	69-112	○	5
	在宅で安心して暮らし続けるための取組	73-82	○	1
	認知症と共生する社会の実現に向けた取組の推進	83-91	○	2
	在宅医療・介護連携の推進	92-95	○	2
	介護者の負担軽減	96-100		
	状態に応じた住まいや施設の整備	101-110		
	高齢者関連施策の実施による住みよいまちづくり	111-112		
基本目標 3	地域の課題を解決するための体制づくり	113-126	○	3
	地域課題・資源の把握、解決策の検討	117-121	○	2
	担い手の養成と地域資源の開発	122-124	○	1
	地域の支え合い活動の促進	125-126		
基本目標 4	介護保険制度の安定的な運営	127-156	○	3

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
1 介護予防・健康づくりの取組 (介護予防の普及啓発)	49	<介護予防の普及啓発の 目標 その1>	現在、健康づくりや 介護予防のために、 運動や趣味の習い 事をしている人の割 合	63.5%	64.5%	アンケートを対象者 30,754人へ送付し、回 答票17,045人分に基づ き集計を実施した。 回答者のうち、評価項目 該当者数10,992人 ※アンケート対象者:70 歳以上の偶数年齢で、要 支援・要介護認定を受け ていない方	健康づくりや介護予防のため に運動や趣味の習い事をしてい る人の割合は目標達成となった。 新型コロナが5類になったこと や、百歳体操の団体の増加、スマ ホの普及による情報入手機会が 増えたこと等が要因として考えら れる。(元気アップ大調査におけ る「スマートフォン・タブレット・パ ソコンのいずれかを持っている」 割合が年々増加している。参考: R4 75.9%、R5 80.4%、R6 82.3%) 介護予防教室等に参加した人 数は目標達成となった。地域包 括支援センター主催の介護予防 教室では、参加者のニーズや地 域の健康課題に即して多様な内 容を取り上げて介護予防の普及 啓発が推進された。
	49	<介護予防の普及啓発の 目標 その2>	介護予防教室等の 参加者数	2,000人	2,076人	(内訳) ・介護予防教室(地域包 括支援センター分) 1,853人 ・いきいき健康体操教室 223人	いきいき健康体操教室を令和 5年度よりリニューアルし、民間 事業者施設ではなく老人福祉セ ンター・老人憩いの家の全12荘で 各1回、短期集中で開催。会場と なる老人福祉センター・老人憩 の家での申し込み受付を委託事業 者での受付と並行して行ったところ、 昨年度よりも多くの申し込み があった。

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
2 (住民主体の介護 予防活動の育成・ 支援(地域の通いの 場の充実))	52	<住民主体の地域の通いの場(1)～(3)の目標 その1> [補足(通いの場)] (1)トコろん元気百歳体操 (2)お達者倶楽部 (3)その他の地域の通いの場	住民主体の地域の通いの場の数	126か所	125か所	(内訳) ・トコろん元気百歳体操 77か所 ・お達者倶楽部 41か所 ・地域サロン 7か所	住民主体の地域の通いの場の数と参加者数については、年度目標に達していない。お達者倶楽部においては、団体の高齢化により廃止する団体もあり、新規の立ち上げはあるが全体数が増えない状況が続いている。現在、新規立ち上げの動きがある通いの場もあるため、引き続き立ち上げに向けた支援を行っていく。 また既存の団体に対しても、引き続き理学療法士による支援や生活支援コーディネーター等と連携し、活動をサポートしていく。
		<住民主体の地域の通いの場(1)～(3)の目標 その2> [補足(通いの場)] (1)トコろん元気百歳体操 (2)お達者倶楽部 (3)その他の地域の通いの場	介護予防に資する住民主体の通いの場への65歳以上の参加者数	5,770人	5,217人	(内訳) ・トコろん元気百歳体操 1,269人 ・お達者倶楽部 730人 ・地域サロン 89人 ・その他地域包括支援センターが把握している通いの場 3,159人	△

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
3 介護予防・健康づくりの取組 (高齢者の健康に関する取組)	56	<健康に関する相談窓口等の周知、体制の推進の目標>	随時対応による相談件数(65歳以上)	560件	584件	健康相談窓口を周知する「ご相談は保健センターへ」のチラシの配布や関係機関での配架等協力を得ながら積極的に周知を図った。	気軽に誰でも健康に関する相談ができる窓口として、また個々に合った相談ができる場として必要な方に活用してもらえるよう、積極的に周知を図った。その結果、令和5年度実績と比較すると健康相談件数は増加している。インターネットの普及等により情報は得やすくなっているが、今後も必要な方に活用してもらえるよう周知に努めていく。
	57	<食を通じた健康づくりについての取組の目標>	介護予防栄養教室の参加者数	200人	217人	楽しく健康食教室(前期・後期・修了生の集い)参加者数217人 各教室のチラシ配布などを行い、周知を図った。	△ 教室への参加は、健康寿命を延ばすために重要な食生活の見直しをする機会となるので、その重要性の周知啓発を行った。また、「楽しく健康食教室」は、参加者の食や健康を見直す意識を高めるように工夫し、修了生のフォローアップ教室を開催した結果、前年度より参加者数が増加した。さらに栄養教育に加えて口腔の講話と体操実技、試食を行う「すこやか栄養教室」を老人福祉センター等で実施し、前年度より大幅に増加し、278人が参加している。引き続き、普及啓発に取り組んでいく。
	58	<特定健康診査の受診率向上に関する目標>	特定健康診査の受診率	60%	31.1% ※暫定値(R7.3.27現在)	・受診勧奨ハガキ発送 1回目(9月27日) 41,797通 2回目(12月20日) 33,058通 ・受診勧奨通知発送 (12月17日) 3,607通	未受診者勧奨については、年度当初の計画に即して遂行できたものの、目標値には至らない見込である。健診受診を習慣化させるために若年層への啓発にも取り組んでいく。

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
3 (続き) 介護予防・健康づくりの取組 (高齢者の健康に関する取組)(続き)	59	<後期高齢者健康診査の受診者数向上に関する目標>	後期高齢者健康診査の受診者数	16,900人	14,883人 ※暫定値	5月28日に対象者51,322人に受診券を発送した。	年度当初の計画に即して遂行できている。
	59	<健康への関心が低い人へもアプローチする仕組みづくりの推進の目標>	健幸マイレージ事業参加者の1日平均歩数	8,000歩	6,374歩	・埼玉県の事業見直しに伴い、令和6年4月から、歩数計測方法がスマホアプリに一本化されるとともに、アプリ自体もコバトンALKOOマイレージへ変更になった。 ・累計登録者数は令和7年3月末時点で9,325人で県内1位となっている。 ・広報ところざわ5月号で新アプリの周知を行ったほか、各まちづくりセンター等でチラシの配布やポスター掲示により、事業の周知を行った。 ・庁内他課が実施したウォーキングイベント(トコろんウォーク2024、みどりのふれあいウォーク)と連携し、マイレージ事業の参加者に市独自ポイントを付与する事業を実施し、市民の出歩きを促進した。 ・10～12月を「ウォーキング促進強化月間」とし、期間中、一日当たりの平均歩数が8,000歩以上の参加者に対して、抽選で景品を提供し、歩数の増加を図った。 ※平均歩数実績は埼玉県から報告があった5月～3月分から算出。	△ 健幸マイレージ事業については、事業見直しにより、歩数計測方法がスマホアプリに一本化されたが、「スマホは大きく重たいので家の中では持ち歩かない」という意見もあり、歩数計測の機会が減ることで、前年度より平均歩数が減少した可能性がある。 一方で、事業見直し後も累計登録者数は依然県内1位を維持しており、広報等の周知による一定の成果があったものと考えられる。 参加者数が多いと平均歩数が下がる傾向が見受けられるが、引続き平均歩数の増加に取組み、歩きを中心とする健康づくりを推進していく。

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

	施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
4	いきがいづくり・ 社会参加の促進	67	<長生クラブの活動支援の 目標>	長生クラブ数の維持	53団体	50団体	令和6年4月1日時点 会員数 2,699人	△ 単位長生クラブ数の減少につ いては、高齢化による役員のなり 手不足等の要因がある。
5	在宅で安心して 暮らし続けるため の取組 (緊急時に備えた 支援体制)	81	<救急医療情報キットの配 布の目標>	救急医療情報キット の累計配布本数	18,750本	18,605本	【参考】 累計配布本数 令和3年度:16,605本 令和4年度:17,352本 令和5年度:18,067本	△ 広報・ところバスで周知した 10・11月は申込が増えたが目標 には達しなかった。 令和7年度以降は、周知に力を 入れ、イベント時の配布にも力を 入れていきたい。
6	認知症と共生す る社会の実現に 向けた取組の推 進	86	<認知症初期集中支援 チームの運営・活用の推進 の目標>	認知症初期集中支 援チームの訪問支援 実人数	40人	57人	初回訪問実人数を計上。	○ 認知症初期集中支援チームに ついては、目標値を上回る積極 的な訪問活動が実施された。 個々の支援の質を確保するた め、チームに依頼する事例につ いては選定していく。
		89	<認知症サポーターの養成 と活動の支援の目標>	認知症サポーター養 成講座受講者数(延 べ人数)	29,500人	30,119人	開催回数 45回 受講者数 2,143人	

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
7 在宅医療・介護連携の推進	94	<在宅医療・介護連携の推進の目標 その1>	在宅療養に関する情報を周知する件数	6,000件	7,893件	(内訳) ・市民向け講演会参加者数 187人 ・冊子等配布部数 2,616部 ・HP閲覧数 4,043件 ・動画セミナー視聴数 836件 ・医師による人生会議セミナー参加者数 80人 ・講座等の参加者数 131人	各指標において目標達成となった。 「在宅療養に関する情報を周知する件数」に関しては、市民向け講演会やホームページによる周知等に加え、人生会議(ACP)の普及啓発を進める中で、新たに「医師による人生会議セミナー」を開催したほか、人生会議の新しいチラシを作成・配布するなどの取組を行い、多くの方へ在宅療養に係る周知ができた。
	95	<在宅医療・介護連携の推進の目標 その2>	絆ネットところ活用人数 ※1か月平均実利用人数	310人	371人	多職種間の情報共有ツール「絆ネットところ」の1か月平均実利用人数	○ 「絆ネットところ」については、関係機関と連携して「医療・介護の連携ツール」として紹介してきたこともあり、利用数については目標値は達成したが、絆ネットところ以外の様々な連携ツールを利用している状況も伺え、このような点にも留意しながら、引き続き、在宅医療・介護連携の推進に努めたい。

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
8 地域の課題を解決するための体制づくり	120	<生活支援コーディネーター・協議体の目標 その1>	第1層と第2層の情報共有のための会議開催回数	6回	6回	第1層・第2層生活支援コーディネーターの情報交換会を隔月で6回実施	生活支援コーディネーターの会議については、予定通り実施し、日々の業務での困りごとや有用な情報、市全域の課題であるデジタルディバイドに関する今後の取り組み方やアイデア等を共有した。 高齢者の情報格差への対応や地域のつながりづくりのためにスマホ教室、スマホサロン、スマホカフェ、スマホサポーター養成講座を実施したほか、スマホ教室における講師の新規開拓を行った。
	120	<生活支援コーディネーター・協議体の目標 その2>	生活支援コーディネーターや協議体の活動を通じて把握する地域における社会資源の数	868件	858件	10月～12月に把握済みの社会資源の現状把握・情報の更新作業を実施 年間を通し、新たな地域資源の発掘・団体支援を実施	社会資源については、所沢市社会福祉協議会で把握しているボランティア団体の登録も行い、前年度と比較し13団体の増加となったが、目標を下回る結果となった。 △ 担い手の創出のために実施した所沢シニア・アカデミーについては、講座を通して地域活動を「見つけることが出来た」「見つける方法が分かった」と回答した受講者の割合は目標の90%を達成することが出来なかったが、受講者を積極的にサポートし、地域へ担い手を送り込むことができた。
	123	<担い手の養成・発掘と活動の場の確保の目標>	シニア・アカデミーの講座を通し今後につながる地域活動を「見つけることができた」又は「見つける方法がわかった」と回答した受講生の割合	90%	78.9%	閉講後アンケートに回答した38名のうち、30名が今後につながる地域活動を「見つけることができた」又は「見つける方法がわかった」と回答。 令和6年度参加人数 開講時点:47名 修了時点:43名	シニア・アカデミーの目標、社会資源増加数の目標を達成できなかったことを鑑みて自己評価を△とした。 引き続き既存団体の支援や新たな社会資源の把握・創出に努めたい。

第9期計画の進捗評価表(令和6年度)

施策	計画書 該当頁	評価項目	指標	令和6年度 目標	令和6年度 実績	進捗管理	施策への取組み状況に係る 自己評価
9 介護保険制度の 安定的な運営 (介護給付適正化 の取組)	150	要介護認定の適正化	点検実施率	100%	100%	市調査員の調査票の点検担当、委託調査員の調査票の点検担当、と分担制にすることによって滞らずに点検することができた。また認定事務職員が認定調査員による指導を受け、点検を実施し、目標を達成することができた。	○ 介護給付適正化の取組については3項目とも目標を達成できしており、介護保険制度の安定的な運用に充分寄与できているものと考えている。
	151	ケアプラン等の点検	点検件数	15件	17件	上半期に3事業所で8件、下半期に2事業所で5件、合計5事業所で13件のケアプラン点検を実施した。 住宅改修と福祉用具購入の点検を計4件実施した。	
	151	医療情報との突合・縦覧点検	点検実施率	100%	100%	令和6年度報酬改定に伴い、上半期中は国保連からのデータ提供が一定期間停止していた。その後、停止期間中の分のデータ提供が行われ、月次で漏れなく点検実施できている(年間5,404件)。	